

## 産地情勢 (2021.12.2)

### ブラジル産とうもろこし

ブラジル国家食糧供給公社は2021/22年産の生産見通しを116.7百万トン（前年87百万トン+34%）に0.4百万トン増加した。昨年は早魃でサフィナ・コーンの作付けが適期より1ヶ月遅れ、早霜被害も生じたため。11～1月の天候は南部で雨が平年以下と予測している。（11月12日）

夏作の作付けが93%進捗したが、その2割を占めるリオグランドスル州が乾燥気候により成長への悪影響を受けている。（12月1日）

クロープ カレンダー		作付期	受粉期	収穫期	割合	特徴
フルシーズンのコーン (夏作)		8-9月	11-12月	2-5月	22%	主に国内飼料需要向
サフィナ・コーン (冬作)		1-3月上旬	4月	6-8月	76%	輸出の中心 大豆収穫後に作付

### ブラジル産大豆

作付けが順調で90%（平年86%）進捗した。北部と中部の天候は良好に推移しているが、南部は11月前半は乾燥気候となった。南部は今後2週間乾燥予報となっており、予報が実現すれば単収にマイナスの影響が生じる。（12月1日）

ブラジル国家食糧供給公社は2021/22年産の生産見通しを142百万トン（前年137百万トン）に1.25百万トン増加した。（11月12日）

	作付期	着鞘期	収穫期
例年のクロープ カレンダー	9月-12月初め	1月	1月-4月

### アルゼンチン産とうもろこし

作付けが30%進捗した。（平年40%）週末に広範囲な雨が降ったので、2期作目の作付けには好条件となった。（11月30日）

肥料価格が高騰しており、投入量が減少すれば単収も下がる可能性がある。（11月16日）

夏作は受粉期の天候がラニーニャ現象で高温乾燥になる可能性があるので多くの農家は夏作より冬作の作付けを増やす意向。（11月9日）。

アメリカ海洋大気庁は、ラニーニャ現象が今冬に発生する確率を 87%と発表した。ラニーニャ現象はブラジル北部に多雨、南部とアルゼンチンに乾燥気候をもたらす傾向がある。  
(10月14日)

備考	作付期	受粉期	収穫期
作付は2段階に分かれる。	9-11月始め	12-1月	3-4月
	12-1月	3-4月	6-7月

#### アルゼンチン産大豆

作付けが 39%進捗した。(平年 42%) 週末に広範囲な雨が降ったが、今後は乾燥気候が予想されている。(11月30日)

アルゼンチン的大豆には 33%の輸出関税がかかるため、作付面積は過去15年で最低となる見通し。(11月1日)

	作付期	着鞘期	収穫期
例年のクロープカレンダー	10月-1月中旬	2月	3-6月

#### 米国産とうもろこし

収穫が 84%完了進捗した。(平年 78%) (11月8日)

#### 米国産大豆

収穫が 87%完了進捗した。(平年 88%) (11月8日)

以上、Soybean and Corn Advisor, Inc. Corn+soybean digest より

#### 米国農務省生産量予測 (11月10日)

とうもろこし (百万トン)

	2019/20	2020/21	2021/22
米国 (9-8月)	346.0	358.5	382.6
ブラジル (3-2月)	102.0	86.0	118.0
アルゼンチン (〃)	51.0	50.0	54.5

2021/22 年度末の米在庫率は単収が史上最高の 177bu/acre、生産量が史上2番目の 150.2 百万 bu となったが、エタノール需要が増加し期末在庫率は 10.07%に減少した。

アルゼンチンの 21/22 年度の実生産量は 1.5 百万トン上方修正された。

大豆 (百万トン)

	2019/20	2020/21	2021/22
米国 (9-8月)	96.7	114.8	120.4
ブラジル (2-1月)	128.5	138.0	144.0

アルゼンチン (4-3月)	48.8	46.2	49.5
---------------	------	------	------

2021/22 年度末の米在庫率は単収が 51.2bu/acre に減少したが輸出需要の減少が上回り、7.81%に改善した。

ブラジルの 20/21 年度の生産量は百万トン上方修正された。

アルゼンチンの 21/22 年度の実産量は 1.5 百万トン下方修正された。

\*北半球の穀物年度は 21/22 の場合、2021 年の月から始まるが南米は 2022 年の月から始まる。(USDA))